

土佐清水ジオパーク構想のテーマについて知ろう！

一黒潮と共に生きる一

漁師が生まれる大地の物語



ジオパーク専門員の土井さん、土佐清水ジオパーク構想のテーマが「一黒潮と共に生きる一漁師が生まれる大地の物語」らしいですけど、「漁師が生まれる大地」ってどういう意味なんですか？



これは、比喻表現だよ。大地が黒潮と出会うことで、土佐清水の風土が作られ、海と共に生きる暮らしが形作られてきたことを表しているよ。ここでいう「漁師」は、海で海産物を獲って生計を立てている本当の漁師さんだけでなく、海と共に生活し、海や大地の恵みに感謝しながら生きている人たち、つまり土佐清水に生きる人の総称として、「漁師」と呼んでいるよ。

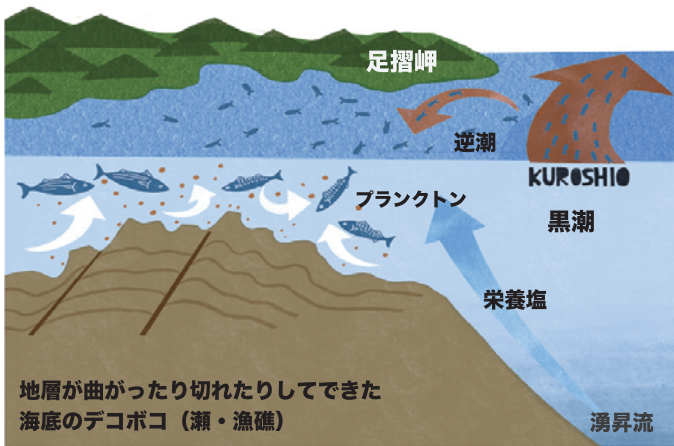


そうながや。僕も清水の新鮮なお魚大好きやし、海で遊ぶのも好きやけん、立派な漁師やね。でも、どうして土佐清水では漁業や宗田節づくりのような産業が発達したか？



詳しく説明するね。足摺岬周辺の大地はマグマが冷えて固まった「花崗岩」できているって知ってるよね。地中で起こったマグマ活動が花崗岩を作り、それが地表に出て、太平洋に突き出す足摺岬を作ったんだよ。そこに世界最大の海流といわれる黒潮がぶつかることで、土佐清水ならではの生態系や海と共に生きる暮らしや文化が育まれてきたよ。

土佐清水が誇る「宗田節」を例にして説明しよう。土佐清水で節づくりが発展した要因は2つあって、1つは足摺岬沖にいい漁場があったこと。2つ目は黒潮により海路が発達したことだよ。まず、この土佐清水近海の海の中を表した図で、説明するね。



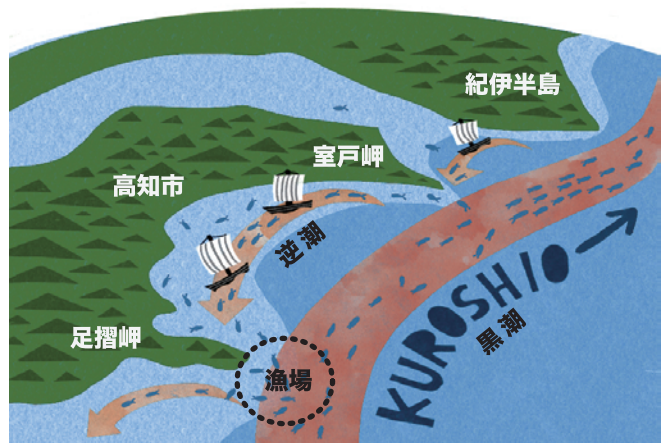
土佐清水沖には海底がボコボコと複雑な「瀬」といわれる地形があるんだ。黒潮が土佐清水近海に流れ込んで、この海底の瀬にぶつかることで、海底から海面へ駆け上がる流れが生じて、海面付近に栄養分がもたらされるから、魚たちにとって瀬は食べ物の豊富な良い環境なんだ。だから、「清水さば」をはじめ、たくさんの魚のすみかになっているよ。さらに、その魚たちを食べるカツオなどの大型の回遊魚も黒潮の流れてきて、土佐清水近海にはとてもいい漁場ができたんだ。



おー、本当に大地と黒潮がおいしい魚を育てようみたいな感じやね。



そうだよ。2つ目の海路について説明するよ。下の図のように南からやってきた黒潮が足摺岬、室戸岬、紀伊半島といった太平洋に突き出す岬にぶつかることで、岸に沿って黒潮とは逆方向の西に向かう逆潮と呼ばれる海流が生まれるんだ。古くからこれらの海流を利用して海路が発達してきたんだよ。江戸時代に紀州(今の和歌山)の漁師がこの逆潮を利用して足摺半島近海へやってきて、カツオの好漁場を発見し、先進的なカツオ漁や節づくりの技術を伝えたことが、土佐清水に漁業の発展をもたらしたんだ。そして、黒潮がもたらす暖かく雨が多い気候は、陸地の豊かな森林も育んだ。節を燻すのに使われる薪の「ボサ」の原料のウバメガシなんかもたくさんあったんだ。節づくりは、まさに土佐清水の風土にあった産業なんだよ。「土佐清水らしさ」の根本には、大地の物語があるんだよ。だから、土佐清水の人たちは、昔から海や大地への感謝の祈りを捧げながら生活してきたよ。地区ごとに、今も自然の恵みに感謝を捧げるお祭りが行われていて、舟唄や太刀踊りなどが継承されているよ。



土佐清水の人たちは、海や大地をリスペクトしながら、生きてきたがやね。



そうだよ。だから、自然への感謝の気持ちは忘れないようにしないとね。そして、大地の物語が形作ってきた「土佐清水らしさ」を未来につないでいきたいね。

告知

清水のシオ

土佐清水ジオパーク構想 & 市民図書館共催イベント

私たちの暮らしに欠かすことのできない塩。日本ではいにしえより海水から塩を作っています。土佐清水でも塩作りをしていた時代がありました。海水はなぜしょっぱい？海水から塩を取り出すには？塩とジオの関係は？実際に海水から塩を取り出す実験を通じて塩の秘密にせまります。

日時 9/25(土) 10:00~11:30

定員 10人程度

対象 小学4年生以上
(3年生以下は保護者同伴)

お問い合わせ
市民図書館
82-4151

※開催場所や募集の詳細については土佐清水ジオパーク構想WEBサイト等でお知らせします。

